

大学院修了にあたり

大学院修了にあたり

歯周診断・再建学分野 佐藤圭祐

国語の授業で孔子の論語を学んだ記憶がある。その中の一節で、「子曰く、学ばざれば則ち罔し、思いて学ばざれば則ち殆し。」という言葉を紹介したい。「物事を学ぶだけで自分の頭で考えなければ身にはつかない。逆に、自分で考えるだけで学ぶことをしないと考えが凝り固まって危険だ。」という解釈だったと思う。インターネットを活用し多くの情報が簡単に手にはいる昨今、自分の中に情報を素通りさせ「わかったつもり」になりがちだと感じる。しかしそんな時代だからこそ、「人や教科書から学ぶ」ことに加えて「自ら考える」ことが求められていると思う。なぜなら、実際の臨床（もちろん研究においても）では教科書通りにいかないことが多いからだ。私にとって大学院はその事を学ぶ場であったと思う。

研究とは無縁の学生生活を送ってきた私は、この4年間で研究について一から学ばせていただいた。私の研究テーマは「歯周炎と全身疾患の関連」、その中でも特に歯周炎と関節リウマチの関連メカニズムを腸内細菌叢の変動と腸管免疫応答の変化に注目し解析をおこなってきた。研究を通じて得たものはたくさんある。学会発表を通じて

国内外多くの場所を訪れることができ、多くの仲間ができたと思う。また、臨床を行う上でも研究の考え方が活きていると感じる。歯科治療もやはり学問なのだろう。論語には「子曰わく、これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず。」という言葉もある。楽しむことができれば、それが困難を乗り越えて物事を継続させる原動力になるように感じる。そう考えると、臨床も研究も意外と好きかもしれないという自分を見つけることができたことが、大学院生活での最も大きな収穫かもしれない。

最後になるが、ご指導を頂いた山崎和久教授、吉江弘正教授をはじめ歯周診断・再建学分野の先生方ならびに共同研究者の先生方にこの場を借りて心より御礼申し上げます。



歯周診断・再建学分野の同期と（筆者：後列右）

大学院修了にあたって

歯学教育研究開発学分野 中村 太

Aコースの歯科研修医として歯科総合診療部にて勤務していた際、藤井先生にお声かけ頂き、分野として新しくできた歯学教育研究開発学分野の大学院生として入学してからはや4年。学部生時代は自分が大学院に進学するとは全く考えてもみなかったのですが、気が付けば30歳になるまで学生として新潟大学に在籍することとなりました。大学院生活を振り返ってみますと、いろいろなことがありましたが長いようで短い4年間でした。

大学院生としての生活といえはやはり研究ですが、私は光学式3次元動作解析装置、所謂モーショキャプチャーカメラを利用した診療動作解析をメインに研究をさせて頂きました。実験当初は初めて見る実験器具や見慣れぬ数字の羅列に頭が痛くなる思いでしたが、このような恵まれた環境で研究できる機会は今だけだと思い、実際に計測・解析を始めてみると非常に興味深いものでした。現在はまだ研究の途中ですが、将来的に自分の研究成果が大学の歯科臨床教育に役立つよう、今後も研究を続けていきたいと思っています。

また、研究の成果を発表するという事で、学会や研究に際し、様々な土地を訪れました。香港や九州等、今までの自分の生活では決して訪れないような土地に旅し、その土地の文化に触れる機会に恵まれたことは、大学院生の特権だと思います。私は非常にアルコールに弱く、行く先々で地酒を楽しむといったことはなく、ただひたすらにご当地グルメを食していました。香港での本場の中華料理から、長野でさざ虫までいろいろなものを食べましたが、どれも美味しく（さざ虫はそうでもなかったですが）、

機会があれば再び訪れたいなと感じるものでした。

研究の合間は臨床に明け暮れました。指導医である藤井先生が補綴の指導医である関係もあり、補綴を中心に歯科総合診療部にて一般歯科診療を日々行い、患者さんのニーズに沿った治療を学びました。この経験は自分の診療の幅を広くする大きな助けになったと考えています。

歯学教育研究開発学分野と歯科総合診療部に在籍し4年間大学院生として生活してきましたが、その間に学会の主催や歯科臨床研修の実施に携わることができ、非常に有意義な4年間でした。現在学部にも所属している学生さんの中には、大学院にはいかず開業医にてすぐに働きたいという人もたくさんいると思います。開業医でしか学べないことも多いかと思いますが、少し大学院にも目を向けてみてはどうでしょうか。大学院に進学することで苦労することもあると思いますが、その経験が今後の歯科医師としての在り方に幅を持たせてくれるかもしれません。私も大学院生活で得た経験を基に、今後も歯科医師として社会に貢献できるよう努めていく所存です。



同僚の送迎会にて、筆者は左

大学院修了にあたり

歯科矯正学分野 中 田 樹 里

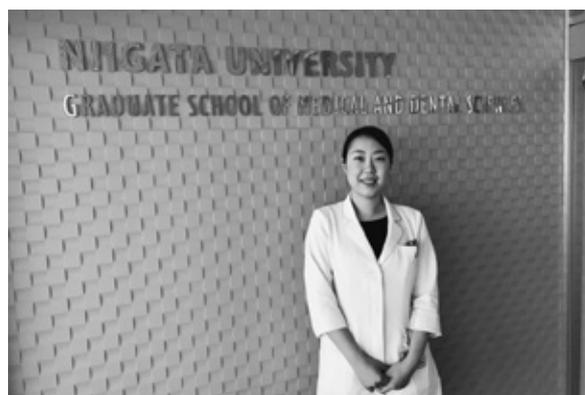
大学院に入学したのは2014年4月のことでした。書類で「修了見込み2018年3月」を見かけた際には、まだまだ先のことだなんて考えていましたが、あっという間に卒業です。私は本学歯学部卒業後、総合診療部にて一年間臨床研修を行い、歯科矯正学分野の大学院へ進学しました。

矯正の勉強がしたい！という思いで進学を決めました。矯正の基本は何と言ってもセファログラムのトレースと模型作り、ワイヤー曲げです。学生時代より技工が苦手でしたが、正直大学院でこんなに技工物に苦しむことになるとは想像していませんでした。よく深夜泣きそうになりながら技工をしていたことは、今となっては良き思い出であり、何事も練習だということを学べた4年間でした。今後も一人前の矯正歯科医を目指して精進して参りたいと思います。

大学院の研究では歯科薬理学分野でお世話になり、「骨代謝」をテーマとしました。全身の骨組織は破骨細胞と骨芽細胞が常に均衡を保ちながら働いており、絶えずリモデリングが行われています。矯正歯科治療時においても両細胞の働きが必

要不可欠であり、薬剤添加により骨代謝が促進できれば、効率的な歯の移動に応用することが期待できます。大学院の研究では、いくつかの有効な薬剤を見つけることができ、今後はその働きの詳細なメカニズムについて解析を進める予定です。実験の手技や骨に関する知識など、一から学ぶことばかりでしたが、いつも丁寧にご指導をくださった先生方には大変感謝しております。

こうして無事に大学院を修了できますことは、歯科矯正学分野、歯科薬理学分野の先生方、同期、後輩のおかげです。改めて心より御礼を申し上げます。臨床では努力を継続すること、研究では好奇心を忘れずに新たな発見を目指すこと、この4年間学んだことを糧として今後も精進して参りたいと思います。



大学院修了にあたり

口腔生命福祉学専攻博士前期課程 高橋 駿 介

時がたつのは早く、二年間の大学院での生活も終わりが近づいていると実感しています。今回の執筆の機会を機に、これまでの大学院での生活で学んだことを振り返ってみたいと思います。

まず、2年間では自らの専門性を身に着けることができたと思います。私の研究は「高齢者の生活習慣について聴取し、要支援・要介護高齢者の中で比較検討を行う」といったものでありました。私自身、福祉の中でも高齢者福祉について興味関心があったため、そうした自ら興味のある分野について学びを深めることができたことはとても良かったことであると思っています。また、学内講義を受け、数々の学会に参加することで、幅広い知識を身に着けることができたと思っています。

もちろん、大学院での勉学により多くの知識を学ぶことができました。しかし、何より学んだことは“忍耐力”“継続力”ということでもあります。私自身、これまでの勉学の中で、自分で計画し、見立てをもって継続して取り組むといった経験はありませんでした。正直なところ、研究に行き詰

まり、時折多少の辛さを実感することはありました。それでも、自分で決めた目標に向けて努力する大学院での勉学を経験することで忍耐強く取り組むことの重要性を実感することができました。もちろん、これらのことは基本的なことだと思います。しかし、これからの人生において最も重要なことであるとも思っています。そして、間もなく2年間の努力が修了という形で実を結ぶ段階にあります。これをゴールではなく、通過点として、これら学んだことを、今後のキャリアに生かしていきたいと思っています。

2年間の大学院での生活は、研究・講義・学会参加・先生の研究のお手伝い等、とても目まぐるしいものでありました。それでも、知識と忍耐力・継続力を身に着けることができ、今では大学院進学という2年前の自分の選択は正しかったと実感しております。最後になりましたが、大学院での2年間、様々な先生方のご指導のおかげで多くのことを学ぶことができました。私は卒後、博士後期課程へ進学はせずに、県の職員として就職する道を選びましたが、これまで学んだことを生かして、限界を決めずに、自分の可能性を信じて、精進して参りたいと思っています。ご精読、ありがとうございました。

平成29年度 大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻博士課程修了者論文名

博士の専攻分野の名称	氏名（専攻）	博士論文名
博士（歯学）	金丸 博子 （口腔生命科学）	下歯槽神経損傷後のSemaphorin 3 Aの発現とその機能に関する研究
博士（歯学）	枝並 直樹 （口腔生命科学）	Characterization of Dental Pulp Myofibroblasts in Rat Molars after Pulpotomy （ラット臼歯断髄後の歯髓myofibroblastの動態解析）
博士（歯学）	末山 有希子 （口腔生命科学）	Effect of lipopolysaccharide stimulation on stem cell-associated marker-expressing cells in rat incisors （ラット切歯における幹細胞関連因子発現細胞に対するLPS刺激の影響）
博士（歯学）	山本 信一 （口腔生命科学）	Evaluation of the Ca ion release, pH and surface apatite formation of a prototype tricalcium silicate cement （試作ケイ酸カルシウム系セメントの生体機能性評価（Caイオンの放出、pHの変動、析出物の形成））
博士（歯学）	斎藤 美樹 （口腔生命科学）	Repeated transfection of human deciduous teeth-derived dental pulp cells with reprogramming factors enables efficient generation of multipotent intermediate cells that are more susceptible to iPS cell formation （脱落乳歯由来歯髓細胞への初期化因子の繰り返し遺伝子導入は、iPS細胞樹立途中の多能性中間細胞の効率的な樹立を可能にする）
博士（歯学）	丸山 直美 （口腔生命科学）	刷掃指導の効果 －三次元動作と歯垢除去効果の解析－
博士（歯学）	村井 朋代 （口腔生命科学）	介助磨きの姿勢は歯みがき運動と歯垢除去効果に影響する
博士（歯学）	北村 厚 （口腔生命科学）	Primary cilia regulate mandibular development （一次繊毛は下顎の発生を制御する）
博士（歯学）	鈴木 英弘 （口腔生命科学）	学童期検診における開口量および開閉口時顎関節音の縦断的調査
博士（歯学）	隅田 賢正 （口腔生命科学）	Cytoplasmic expression of SOX 9 as a poor prognostic factor for oral squamous cell carcinoma （口腔扁平上皮癌におけるSOX 9 細胞質陽性は予後不良予測因子となる）
博士（歯学）	中村 太 （口腔生命科学）	光学式モーションキャプチャ・システムによる歯科診療動作の定量的解析
博士（歯学）	黒木 歩 （口腔生命科学）	Association of liver enzyme levels and alveolar bone loss: a cross-sectional clinical study in Sado Island （血中肝機能マーカー高値と歯槽骨吸収度との間の関連性解析：佐渡市における臨床横断研究）
博士（歯学）	佐藤 圭祐 （口腔生命科学）	Aggravation of collagen-induced arthritis by orally administered <i>Porphyromonas gingivalis</i> through modulation of the gut microbiota and gut immune system （ <i>Porphyromonas gingivalis</i> 経口投与は腸内細菌叢と腸管免疫応答に影響することで、コラーゲン誘導性関節炎を増悪させる）
博士（歯学）	保苅 崇大 （口腔生命科学）	Effects of antimicrobial photodynamic therapy and local administration of minocycline on clinical, microbiological, and inflammatory markers of periodontal pockets （歯周ポケットの臨床、微生物学および炎症マーカーに及ぼす抗菌光線力学療法およびミノサイクリンの局所投与の影響）
博士（歯学）	根津 新 （口腔生命科学）	Expression of neprilysin in periodontitis-affected gingival tissues （歯周炎罹患歯肉組織におけるネプリライシンの発現）
博士（歯学）	阿部 遼 （口腔生命科学）	超音波診断装置を用いた骨格性下顎前突症患者の嚥下時舌運動様相の検討

博士の専攻分野の名称	氏名（専攻）	博士論文名
博士（歯学）	中 田 樹 里 （口腔生命科学）	The effect of ROCK inhibitors on bone remodeling and rat experimental tooth movement （ROCK阻害剤の骨代謝およびラットを用いた実験的歯の移動への効果）
博士（歯学）	本 多 綾 子 （口腔生命科学）	クラスター分析による骨格性下顎前突症例における正貌パターンの分類
博士（歯学）	河 村 智 子 （口腔生命科学）	顔面非対称を伴う骨格性下顎前突症例における側頭骨部と下顎骨形態についての三次元分析
博士（歯学）	阿志賀 大 和 （口腔生命科学）	Effect of volition on chewing and swallowing behaviors in healthy humans （健常者において咀嚼の意識化が摂食嚥下運動にもたらす影響）
博士（歯学）	福 田 昌 代 （口腔生命科学）	地域在住自立高齢者における口腔機能と口腔関連QOLの関連性 －台湾の調査から－
博士（歯学）	前 田 留美子 （口腔生命科学）	Inter-individual variation of bolus properties in triggering swallow during chewing in healthy humans （咀嚼時における嚥下閾値の個人差の検討）
博士（歯学）	栗 生 麻 衣 （口腔生命科学）	Assessment of the oral health-related quality of life and the health-related quality of life in the patients with stomatological diseases （口腔疾患を有する患者における口腔関連QOLと健康関連QOLの評価）
博士（歯学）	小 林 太 一 （口腔生命科学）	口腔内超音波走査における粘膜上皮層に関するファントムを用いた基礎的研究

平成29年度 大学院医歯学総合研究科口腔生命科学専攻論文博士取得者論文名

博士の専攻分野の名称	氏名（専攻）	博士論文名
博士（歯学）	君 雅 水 （口腔生命科学）	小児の顎顔面の表面形態を用いた咬合平面評価システムの開発

平成29年度 大学院医歯学総合研究科口腔生命福祉学専攻博士前期・博士後期課程修了者論文名

専攻分野の名称	氏名（専攻）	論文名
修士 （口腔保健福祉学）	有 賀 彩 乃 （口腔生命福祉学）	児童養護施設退所児童に関する一時データの分析 －「新しい社会的養育ビジョン」との対比－
修士 （口腔保健福祉学）	高 橋 駿 介 （口腔生命福祉学）	高齢者の健康を維持する生活習慣 －食習慣・歯磨き習慣・歯科受診の観点から－
修士 （口腔保健福祉学）	中 川 雪 人 （口腔生命福祉学）	主要分野別の社会福祉法人における労働分配率の比較分析
博士 （口腔保健福祉学）	大 塚 紘 未 （口腔生命福祉学）	介護保険施設における栄養・口腔衛生管理に係る介護報酬請求算定状況と歯科専門職等の参画状況との関連
博士 （口腔保健福祉学）	坂 本 まゆみ （口腔生命福祉学）	特別養護老人ホーム入所者における自発摂食評価と死亡率との関係：2年間の縦断研究
博士 （口腔保健福祉学）	中 野 恵美子 （口腔生命福祉学）	てんかんの食事療法が口腔健康状態に及ぼす影響の検討